

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>12<

教訓は生かせるか：

杉尾 哲氏 基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



野外で活動している

人間は川を渡るとき、つえを使えと言われるんです。2本足で立つよりも3本足のほうが安定するからです。私も川で活動するNPOMメンバーからしたら至極当たり前の話なんです。が、そういったことはなかなか皆さんに存してはなりません。台風14号では避難勧

告の後、避難指示が出るまでに川の水は2層上がっているんです。とてもじゃないけど、避難するのに危険な状態です。

不幸なことに、兵庫県では小学校に避難しようとして、昼間見たときには何ともない所だったのですが、水深80センチ、秒速2層の水が

流れていて、子供さんを含めて9人の方が亡くなられたということなんです。そういう意味からすると、避難勧告が出て避難指示が出るまでにものすごく水位が上がるわけですから、すぐこんな状況になつてしまふということを知っておく必要があります。

避難指示が出てから避難すればいいという考え方をもちの方が

いらつしやると思いますが、それは間違いです。自分は大丈夫と思っている方に限って、大きくいろいろのことが起こつてしまうということを肝に銘じてほしいと思います。

避難中に避難しないためには、足元が泥水で見えまないのでつえをついて、足元を確認しながら、みんなとロープで結んで逃げなさいという話になっていきます。

内水氾濫のときにはこれで大丈夫ですが、外水氾濫のように川の水が動くという話になると、実はこれでもだめなんです。大人がスクラムを組んで、その中に子供さんを入れて



動いていかなないと流されるんです。そうやって地域のみんなが助け

合つて逃げるのが大切だろつと思ひます。それから、自分の住んでいるまち、わが家から避難所まで行く経路はどこに危ない箇所

堤防を超え次々と流れ込む濁流。この中を避難するのは極めて危険（平成17年9月6日午後2時ごろ、延岡市西陸町のうぐいす団地）

があるのか、晴れたときには分からないんです。雨が降ったときには、水防活動に詳しい地域の方、防災士の方とかと一緒に、逃げ道を探してほしいと思います。

自衛隊など風雨の厳しいさなか活動していただく方々は、一人で流れの急な所を渡らないなど、危険性をきちんと認識して、ぜひ研修の中で実際の川の中に入って渡河訓練をやる必要があるだろうと思います。

わが家から避難所まで

晴れた日には分からない危ない箇所

防災・減災を考える
シンポジウムから――